

<エピソード>

公民館職員 A さん。南海トラフ大地震の話題になるたびに、公民館で何かできることはないかと考えています。そんな時に利用者の会話が聞こえてきました。

B さん「先月行われた避難訓練、参加者が少なかつたらしいで」

C さん「そうか、自治会の防災・防犯部のメンバーは少ない人数で一生懸命考えて取り組んでいるみたいやけど、防災への関心が低いのかなあ。」

D さん「そうやな。自力で逃げることができると思うし、あまり関心ないなあ」
こんな会話を聞きながら、企画のイメージがわいてきます。

ここが
ねらい

地域防災活動への関心を高め、積極的に活動に参加する人を増やす。

○概要

防災に関する基礎知識や災害時要援護者に対する支援などの講義、ワークショップ、取組みの情報提供などを通して地域防災活動への関心を高める。

参加者：地域住民
実施場所：学校
公民館等社会教育施設



社会教育の役割



気づきを促す

学び機会をつくる

始めようという意識の醸成を図る

情報提供をする

取組内容

◆地域で開催されるフェスタ（自治会主催等）の中で防災〇×クイズを実施
災害時に、みんなが慌てずに安全に避難できるために必要な知識を学ぶ。

<ここがポイント>

多くの人に参加してもらえるよう景品等を用意するなどの工夫をする。
その際、地域の商店街や企業等に協力してもらう。

◆公民館が地域防災に「関心をもつ人を増やす」「活動に参加してみたいと思う人を増やす」ことを目的とした講座を実施

- ①災害時に予想される被害や、防災に関する基礎知識を学ぶ。
地震や風水害について映像等を交えながら普段からの備え等について学ぶ。
- ②災害時における要援護者の抱える困難を学ぶ。
東日本大地震時等に、避難時や避難所で、要援護者に降りかかった困難の事例を通して、要援護者支援に必要な知識を学ぶ。
- ③要援護者支援のために地域で取り組めることを考える。
①～②で学んだことを踏まえて、「顔の見える関係づくり」や「見守り活動」など地域でできることをワークショップ形式で考える。

- ◆講座参加者にメールやチラシ等で取組みの情報を提供
 - ・避難訓練や避難所一日体験など地域防災活動に関わる情報を知る。
 - ・地域で行われている要援護者支援に関わる取組みを知る。

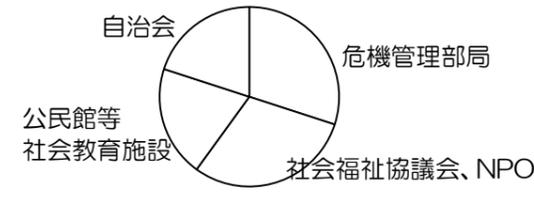
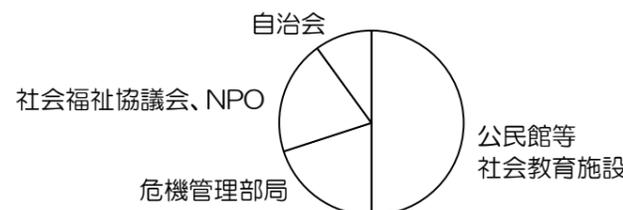
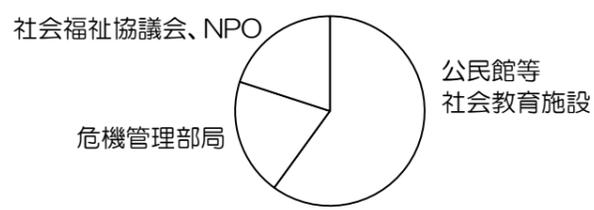
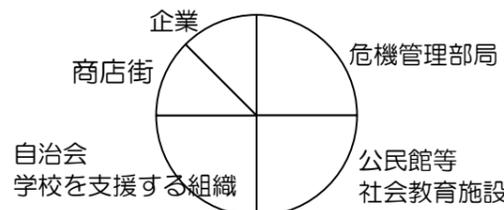
- ◆講座参加者等に防災活動への参加を促す
 - ・避難訓練や救出・救護訓練等に参加
バケツリレーや担架運搬などの防災活動を体験する。
 - ・災害時要援護者避難訓練や避難所一日体験などの取組みに参加
避難時や避難所で高齢者や障がい者等に起こりうる困難を想定して必要な支援を体験する。
 - ・自治会の防災・防犯部等への参画

つぎへの工夫！ クイズの回答用紙の裏に講座のお知らせを掲載する。

つぎへの工夫！ 講座のアンケート等に必要情報が流せるようにメールアドレスの記入欄をつくる。

つぎへの工夫！ 情報を流す際に、関心を高めるため要援護者支援の体験談も同時に提供する。

取組みに関わる
団体と分担の
イメージ



Dさんの
気持ちの変化

○気づく
「災害があっても家にいれば大丈夫だと思っていたけど、家の中にも危険なことは多くあるんだなあ。そう考えると近所に住む両親のことが心配だなあ」

○学ぶ
「要援護者に対して、必要な支援や配慮はなんとなく分かったけど、実際の災害時に何かできるのかなあ」
「避難所まで一人で行くことができない人にとっては地域の支援は死活問題なんだなあ。地域でもできそうな支援の取組みていろいろありそうだなあ」

○知る
「地域でもさまざまな防災活動や要援護者支援の取組みが行われているんだなあ」
「興味のある取組みに1回参加してみよう」

○始める
「参加してみると周りから見ているとわからない問題点もあるもんだなあ。課題もあるけど、仲間と一緒にできることから少しずつ取組みを始めていこう」

関心度
高
↑
低